

大学の世界展開力強化事業 H28取組概要 明治大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

たくましい「現場力」および日本と東南アジアに関するリテラシーを持って、将来、ビジネスパーソン、ジャーナリスト、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野で国・地域を跨いだ懸け橋となりうる実務型リーダーを、日本とASEAN諸国の双方に育成。

【構想の概要】

国際共同コンソーシアム内での共同教育プログラム、本学海外教育拠点での各種プログラム等、長短期様々な教育プログラムを通じて、5年間で日本人送り出し530名及びASEAN側学生受け入れ515名、合計1,045名の交流を目指す。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ ASEAN各国トップ校との連携

本事業パートナー大学は、7カ国17大学に亘る。

2017年3月、本事業パートナー各大学及び在バンコクの教育関係者を本学アセアンセンターに招き、各大学の取組及び成果の報告と、交流のさらなる拡大に当たっての課題の共有をテーマとしたミーティングを実施。



ミーティングの様子

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

○ 多層的な派遣・受入プログラムの展開

一般的な交換留学や短期の派遣・受入プログラムの実施に留まらず、学生のニーズに応じ多層的な教育プログラムを展開。

○ 日本語・日本文化交流(SEND)

学部で実施する夏期短期プログラムと連携し、本事業パートナー大学であるシーナカリンウィロート大学(タイ)、ベトナム国家大学ハノイ外国語大学でSENDプログラムをj実施。

○ 双方向の遠隔授業

アセアンセンターをシーナカリンウィロート大学内に設置している利点を生かし、本学・シーナカリンウィロート大学双方の学生に対し、いずれも単位付与を伴う遠隔授業を実施(「東南アジア理解講座」「Japan Today」)。



遠隔授業の様子

○ インターンシッププログラム

東南アジアで活動する企業、国際機関、非営利組織等において、参加学生が実務実習に従事。

○ 共同ワークショップ

アセアンセンターを会場に、チュラロンコン大学(タイ)、シンガポール国立大学と本学理工学研究科の学生が共同で建築・都市デザインに関する協働ワークショップを実施。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

学内のASEAN地域に対する関心・理解の高まりに伴い、派遣プログラム数が毎年増加するのに伴って、プログラムに参加して同地域への留学を果たす学生が年々増加している。派遣プログラム数は本事業開始当初から倍増した(2016年度は16)。

○ 外国人留学生の受入

HPIによるプログラム内容や留学体験談の広報、そして参加学生の「口コミ」が潜在的な留学希望者の意欲を喚起し、多くの本学留学希望者が本学への留学を果たした(2016年度は計141名)。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17	139	127	135	180
学生の受入	10	86	115	111	141

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ アセアンセンターへの常駐者配置

センター用を含む日本人2名、タイ人1名を常駐させ、特にタイで実施するプログラムについて、パートナー校との共同ワークショップやシンポジウムを実施する際の会場提供といった物的側面、企画段階での実施先との調整、テレビ会議システムを使用した事前講義の実施、実施中の学生引率、及び実施後の学生へのアンケート調査といった人的側面の両方でサポートを行っている。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開・成果の普及

○ 専用HPの運用

本事業によるプログラム実施成果を日・英語で学内外に広く発信するとともに、潜在的な留学希望者の日本/ASEAN加盟国への意欲を喚起するべく、本事業により留学を果たした学生の「声」を多言語で発信。